

## AI時代に必要な力

自分はどうしたいのか？ 自分にしかできないことは何か？

校長 田中 一秀

旧年中は、保護者、地域の皆様のご理解とご協力をいただき、教育活動を展開することができました。本年もさらなる教育の充実、発展を目指し、教職員一同全力で取り組んでまいります。変わらぬご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

さて、2学期の終業式に、「自分で考える、自分で決める」ことの大切さについて話をしました。そこでは、今後進歩していくであろうAIについて触れ、AIには「こうしたい」という意思がない、AIには、自分が何をしたらいいのかを決めることができない、そのことから考えると、AI時代に私たちに必要なのは「自分はどうしたいのか」ということ、これがないと、AIにとってかわられるかもしれないと話をしました。自動運転の自動車は、そう遠くない将来に一般化されると思います。そうすると、例えば、目的地を大阪にすれば、自動運転の自動車が安全に大阪まで連れて行ってくれるはずですが、さらに、条件として、富士山がきれいに見える所を通ると付け加えれば、富士山を見ながら大阪まで連れて行ってくれるようになるかもしれません。しかし、自動運転の自動車に「どこかに行って」と指示しても、動くことはできません。AIが進歩していくこれからの時代、言われたことを忠実にやる力よりも、「こうしたい」「あったらいいな」と、問題を発見する力が必要なのです。

自動運転の自動車が登場することで、交通事故も起こらず、快適なドライブができるようになるでしょう。では、自動運転の自動車が普及すれば、運転士は必要ではなくなるのでしょうか。確かに、自動運転の自動車の登場は、運転士不足の課題解決につながりますが、私は、運転士という職業はなくならないと思います。数字には表れなく言葉でもいい表すことができませんが、この運転士の運転する自動車は乗り心地がいい、この運転士の運転する自動車に乗りたいということがあるはずですが、また、例えば、記念日や旅行先など、特別な時は特別な空間でと、熟練のドライバーの高級車に乗りたいということもあるはずですが。これからは、この運転士の運転する自動車だから乗りたいというように、「この人だから」ということがますます重要になってくると思います。誰にでもできることはAIが代替する、自分にしかできないことが、今後ますます大切になってくると思います。そう考えると、特定の同じことで、人と比較して優劣をつけることに大きな意味はない、そのことで苦しむ必要はない、主体的に行動する「I do」を育てることが大切だと思います。本校の生徒は全員、それぞれ輝いているところや素敵なおところ、また頑張っているところがあります。自分がしたいことは何か、自分はどうしたいのか、自分にしかできないことは何か。自分なりの問いを、自分なりの方法で、自分なりの答えを出す力をつけていって欲しい、その力を、学校、家庭、地域で付けさせていきたいと思っています。

ところで、本校では先月、地域の方々を面接官とした3年生の進路模擬面接を行いました。「生徒は教職員を知っているのだから、面接練習において緊張感が出ない」という悩みが解消されたのと同時に、生徒に「知らない大人と話をすることは難しい」ことを体験させることができました。私自身、地域の方に面接官をお願いした面接練習は初めてであり、大変うれしく思ったのと同時に、このような取組ができるのも、本校の地域、保護者のご理解、ご協力のおかげであると感謝しております。今後さらに地域との連携を深めてまいりますので、様々な面でご支援、ご協力をお願いいたします。

志を新たに新年にあたり、「すべては本太中の生徒のために」を合言葉に、教職員一同全力を尽くすと共に、学校と地域が力を合わせそれぞれの立場で主体的に地域の子どもの成長を支えていく学校、地域コミュニティづくりを進めることを、今年一年の私の決意といたします。本年もどうぞよろしくお願いいたします。